

学びみらいPASS活用の流れ

アセスメント理解

1 生徒向け解説会の実施



受験後にワークを交えた参加型の生徒向け解説会を実施。生涯を通じ学び続ける姿勢を持つきっかけとなるよう、生徒の主体性を促す構成となっています。

キャリア学習

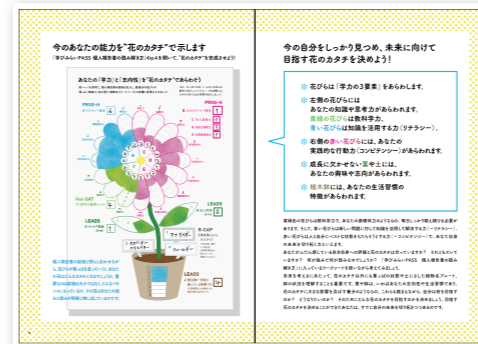
2 サポート教材の活用による自己理解の促進

サポート教材の「学びみらいNOTE」、「個人報告書の読み解き方」（振り返りワーク付き）の活用により、将来の可能性について自己理解を促します。また、未来へ向けてどのような力が必要なのか、伸ばすためには何をやるのかをワークを通じて確認します。



新しい学力育成・フォローアップ

3 “花のカタチ” ワークシート



自分の能力のバランスを視覚的に捉えることで、どんな花のカタチをめざすのかを自ら考えさせます。

4 さらにスキルアップにむけて

受験後のフォローアップ教材として「高校生のためのリテラシー強化書」を用意しています。自学自習用のトレーニングBookと、教員用の授業デザインマニュアルの2種類があります。



生徒の流れ

1 回目受験

成績資料返却

生徒向け解説会

ワーク① 自己の客観視

※PROG-Hを含んだ受験の場合は、生徒向け解説会および教員向け説明会の実施が可能です。

教員向け説明会

ワーク② 自己理解・自己探求

面談に向けての勉強会の実施

面談

面談実施後の教員間での振り返り

ワーク③ 目標設定

学校・学年の課題の確認
教育目標の設定

通常授業・特別プログラム・学校行事
部活動・三者面談

2 回目受験

先生の流れ

受験

スケジュール検討

※複数日に分けた実施も可能ですが、答えはすべて揃ってから返送してください。

例

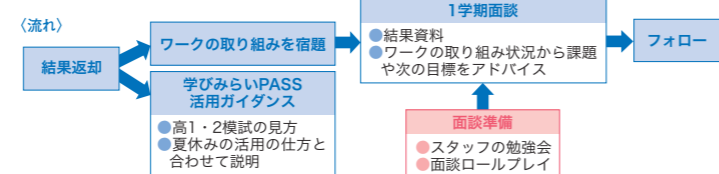
1日目：R-CAP for teens, LEADS, PROG-H (コンピテンシー) を受験。
※自宅解答も可
2日目：Kei-SAT, PROG-H (リテラシー) を受験。

1 教員向け説明会の実施

「学びみらいPASS」の理論的背景や、学年・クラスの特徴・課題点などを報告します。また、個人面談の場面で有効活用できるよう、タイプ別のチェック項目や指導ポイントの解説などを行います。

学年	AAA	AAO	AOA	ADO	OAA	OAO	OOA	OOO	合計
1年時	3	3	15	1	1	1	1	34	36
2年時	3	3	4	4	4	4	4	36	60
3年時	2	23	5	18	1	4	11	7	65
4年時	10	4	8	1	4	6	7	3	38
5年時	5	7	4	3	4	6	7	4	40
合計	43	55	34	28	12	16	28	27	223

2 河合塾での面談時活用例



全統模試は「志望校への距離を測る」テスト、学びみらいPASSは「進路の可能性を広げ、目標を明確にする」アセスメントテストとして活用し、大学合格にとどまらず、その先を見据えた指導を展開しています。

生徒の特性把握

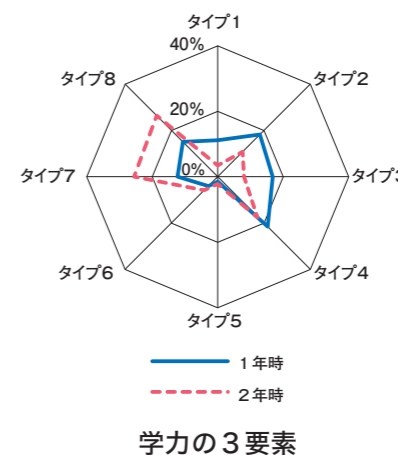
3 診断から次のステップへ

「学びみらいPASS」の診断結果から「育成すべき人材像（資質・能力）」を定め、そのために何を教えるのか、どのように育成するかといった、カリキュラムマネジメントにご活用いただけます。



授業・カリキュラム改善

4 複数回受験による教育効果の可視化



- 集団の特性把握
- 教育効果の可視化
- 新しい客観的な評価指標

学校・学年といった集団の特徴を、「学力の3要素」「志向性」という2つの面から把握することができます。またカリキュラム評価の客観的な指標として、複数回の受験結果を比較することにより、教育効果を可視化することができます。

プログラムの客観的評価